

事務所通信 リソース

9月号 VOL. 27

税理士法人 中央総合会計

〒070-0037

旭川市7条通13丁目 59 番地 4

TEL : 0166-25-4131 0166-23-0010

FAX : 0166-25-4132 0166-23-7543

URL : <http://csk-i.com/>

E-mail : cyuou@csk-i.com



いつも、お世話になります。

9月21日は宮沢賢治の命日です。

37歳の若さで亡くなった賢治は、短命だった人生を悟っていたかのように「誰が誰よりどうだとか、誰の仕事がどうしたとか、そんなことを言っているひまがあるか?」と問いかけました。

そんなひまはありません。自分がやるべきことに精進するのみですね。

【相殺】をした場合の領収書に印紙は必要?

取引業者との間に、売掛金が20万円と買掛金が18万円ありました。そこで代金を相殺して、差額の2万円を現金で受け取りました。

領収書には20万円と記載し、但し書きのところで「18万円については売掛金と買掛金を相殺」と書きました。このような領収書についての印紙は、どのように取り扱ったらいいのでしょうか?という質問を、ある経営者からいただきました。

金銭または、有価証券の受取書や領収書には印紙税が課税されます。しかし、相殺による売掛債権の消滅を証明するものにおいては、印紙税は課税されません。

また、相殺される金額を含めて記載しているものについては、相殺される金額を明確にすれば、相殺分は記載金額には含まれません。そのため、今回の質問では、相殺される金額「つまり相殺した18万円は記載金額には含まれません。よって、領収書には20万円と記載されていますが、そのうちの現金で受けた2万円が、印紙税の対象となります。なお、今回の場合の印紙税は、記載金額が3万円未満については、非課税ですから印紙は不要となります。ただし、たとえ相殺の事実を証明するために作成された領収書であっても、その事実が文書上明らかになされていないときには、印紙税が課税されますので注意が必要です。



【成熟層が心惹かれる書店】



レンタルDVDのツタヤが展開する『蔦屋書店』が、静かにファンを増やしています。代官山駅から約5分の洒落た施設には、人文学や雑誌、アートや建築など各分野に精通したコンシェルジュが吟味した書籍の他、映像や音楽も圧倒的な品揃えで並びます。ハイセンスなラウンジでは珈琲を飲みながら、購入前の本を読むことができます。少子化に向け 50 歳以上の成熟層をターゲットとした上質な時間の演出を、あえて派手な宣伝を控えて成功させた戦略にも感心させられます。

【信頼&効率アップの名刺術】

現在あなたのオフィスには、何名のスタッフがいますか？
そのうち名刺を持っているスタッフは何人でしょうか？

個々の名刺のデザインや活用法については、書店などに役立つ本がたくさんありますが、今回のテーマは「組織として名刺をどう活用するか」といってお話します。

お勧めは「全員」が名刺を持つこと。

アルバイトやパート、できれば派遣スタッフも含めて全員です。小さな会社では、社内についても取引先とのやり取りは多いものです。その際、先方が名刺を出したときに、「こちらの担当者」名刺がないのでは何とも間が悪いですし、連絡先の交換という本来の役割にも支障をきたします。

また、お客様には私が外回りで不在の折には、社内の担当者にお申し付けください」と、社内スタッフの名刺をお渡ししておくのです。もちろん、そのお客様担当の社内スタッフをきちんと決めておき、情報を共有しておくことが前提です。

携帯電話やメールが一般化した今だからこそ、お客様からの電話は大事にしましょう。

営業担当が不在でも社内内で状況を把握し、対応してもらえらる担当者がいるとこのはおお客様の安心と信頼を生みます。そして社内スタッフも名刺を持ち「担当者」になることで、「当事者意識が高まります」。

このような名刺の有効活用で、お客様やスタッフを大切にすると企業になるというのはいかがでしょうか。



【周りを楽しませ自分も楽しむ！】

「辛」(つらい)に「一」(いち)を足すと「幸」という字になります。

辛くても、あと一步、もう一步と前に進もうという気持ちが、幸せを呼び込みます。

漢字にはもともとの成り立ちや由来がありますが、このように「因数分解」して解釈するとまた違ったメッセージが見えてきます。コピーライターのひすいこうたろうさんにとって「漢字は感字」だそうで、著書『漢字幸せ読本』ではユニークな視点から、独自に解析した漢字の意味を紹介しています。

たとえば、「大丈夫」の3文字にはすべて「人」という字が入っています。あなたに何かあったとき、周りの人はあなたを支えてくれます。どんなときにもあなたには3人の味方がいるのです。

または、「幸」を縦に読むと「+-=-+」(プラス・マイナス・イコール・マイナス・プラス)。物事はすべてプラス・マイナスの中立で、あとはその人がどう見るかだけ。それが「幸せ」の本質です。なかなかうまくいこうと思いませんか。

さて、「働く」ということを漢字の因数分解で考えてみましょう。「人」が「動く」と書いて「働」。しかし、やみくもに動けばいいわけではありません。

「働く」=「はたらく」=「端」(はた)が「楽」(らく)。

つまり、端が楽になるような動きをしたときに「働いた」と言えるようです。さらには「端」が「楽」しくなるように動いたら、自分も同じように楽しくなります。今の自分の行動は、周囲の手助けになっているだろうか。

今やっていることで、周りが楽しくなるだろうか。このように、常に「端」が「楽」の発想を持って動いていたら、きっと商売は上向いていくことでしょう。



「人間というものは、気分が大事です。気分がくさっていると、立派な知恵才覚を持っている人でも、それを十分に生かせません。しかし気分が非常にいいと、今まで気づかなかったことも考えつき、だんだん活動が増してきます」。これは松下幸之助さんの言葉です。「周りを楽しませ自分も楽しむ」、いついかなるときでもそんな好循環の商売をしていきたいですね。